

2010年7月28日

北京ビール、杭州ビールで青島ブランドの受託製造を開始

アサヒビールの中国ビール事業の収益改善と青島ビールのSCM効率化を図る

アサヒビール株式会社

アサヒビール株式会社(本社 東京、社長 泉谷直木)の中国ビール製造子会社である北京啤酒朝日有限公司(北京市、以下「北京ビール」と)と杭州西湖啤酒朝日(股份)有限公司(浙江省杭州市、以下「杭州ビール」)は、青島啤酒股份有限公司(山東省青島市、以下「青島ビール」と)と受託製造契約をそれぞれ7月下旬に締結し、8月上旬より青島ブランド商品の出荷を開始します。

北京ビールでは青島ビールブランドの「青島純生」を、杭州ビールでは青島ビールブランドの「山水(サンスイ)」と「氷醇(ビンチュン)」の2品種の製造を行います。

北京ビールおよび杭州ビールは、今回の提携により、従来の各社独自ブランドの製造に加え、青島ブランドの製造量が上乗せとなるため、生産操業度の向上及び損益の改善効果が見込まれます。具体的には、生産操業度は北京ビールが約6%、杭州ビールが約8%向上することが見込まれます。

また、青島ビールは、今回の提携により生産物流体制の強化を図ります。具体的には、北京市場では、青島ビールの商品ポートフォリオにおいて高級生ビールと位置づけている「青島純生」の生産能力が全社的に逼迫するなか、北京ビールへ製造委託することにより、北京を中心とする華北市場およびその周辺市場への「青島純生」の供給能力を強化することができます。また、杭州市場においては、青島ビールは成長市場である浙江省を戦略市場と位置づけ販売数量を拡大しているなか、杭州ビールへ製造委託することにより、同地区での供給体制を早期に構築することができます。

アサヒビールの中国ビール製造各社では、97年に設立した青島ビールとの合弁会社である深圳青島啤酒朝日有限公司に続き、烟台啤酒青島朝日有限公司(山東省烟台市)が昨年5月より青島ビールの受託製造を開始しています。

今回の受託製造により、アサヒビールの全ての中国ビール製造子会社において青島ビールの製造を行うことになります。

アサヒビールと青島ビールは、昨年11月に締結した戦略提携合意に基づき、引き続き両社の企業価値向上を目指し、提携施策の具体化に取り組んでいます。